

平成23年度 第1回 府中市文化財保護審議会議事録

日時 平成23年5月20日（金）午前9時30分

場所 ふるさと府中歴史館3階会議室

出席者 田中会長、猿渡副会長、小澤委員、坂詰委員、副島委員、長沢委員、中村委員、馬場委員、福嶋委員以上9名

事務局 斎田文化スポーツ部長、英文化振興課長、江口課長補佐、庄司郷土資料担当主査、荻野事務職員

傍聴者 なし

1 審議事項

会長 それでは審議事項（1）について、事務局の説明求めます。

審議事項（1）武蔵府中熊野神社古墳展示館の周辺整備工事について

事務局 資料1の1ページ目、展示館の周辺整備の図になります。展示館の周りはインターロッキングと植栽によって、上円下方墳の形態を表示するような形で整備していこうということになっています。図では石室、墳丘1~3段目についてはそれぞれ表示してあり、石室については、一部建物の所へ入る形になっております。建物の床面にも残りの石室部分を表示し、建物の中に石室と墳丘の説明について展示する予定です。

今回ご審議いただきたいのが石室模型です。これは展示館の西側に設置するというので、（図面に）表示しております。この石室模型は今年度実施する工事として考えております。平成22年の文化財保護審議会の席でも、石室の案ということでご審議いただきましたが、まとまりましたので、最終案としてご紹介させていただいて、ご審議いただければと思います。

資料の2ページ目、これが石室模型平面図です。建物と石室を（横に）輪切りにしたような状態の図で、前は3つの案から絞っていただいたのですが、今回は案をより具体的に示したもので、このように中は河原石を敷き詰めて、石室が作られた当時の形態に復元していくという形になります。石室模型は、この石室内部を示した部分とそれを守る覆いの箱の部分の二つに分かれ、石室を表示したものに箱を被せるような形のものを想定しています。石室内部の表現は、モルタル擬岩工法という方法で石を復元していただく予定です。モルタル擬岩工法は色々あって、内部の石室の表示部分と外部の箱の部分の合わせや構造で各社それぞれのやり方でやっていただくこととなりますので、若干の違いがあります。図面に表示してあるのは一般的工法での表示となります。

資料1の3ページ目、これは(縦の)断面図になります。石室内部と覆いの箱の間の空間部分があり、ここは人が入れるような状況ではなく、常に閉鎖されているような状況になります。屋根から石室の擬岩を吊って持たせるような形になると想定しています。

資料1の4ページ目、これは正面図になります。入口部は石室の石が組まれた当初の形に復元して、その周りは箱なものですから、石室とはわかり難いのですが、入口だけでもイメージできるようにしようと、石室のような入口で実際のものを見ていただけるようにしてあります。

資料1の5ページ目、覆いの部分です。全体はパネルで覆い、通気口と外部と内部の間の空間部分のメンテナンス用の出入口も作ります。

資料1の6ページ目、参考用として埼玉県東松山市の若宮八幡古墳の図面です。熊野神社古墳より若干時期は古い古墳です。同様の胴張りとしり石積み石室を持つものです。この古墳は現在まで石室が完全に残っていました。こちらを解体・整備してきれいな形に復元するという予定で調査を含め整備工事をされているところです。

先日、江口が視察に行って、現地を見てきた折、図面等を頂いてきました。こちらの天井部の構造を確認し、熊野神社古墳には天井部が無いので、その復元に当たっての参考資料としていきたいと考えております。武蔵府中熊野神社古墳保存活用検討委員会の池上先生の指導を現地で受けながら見てきておりますので、その成果を今回の石室復元に盛り込みたいと考えております。

資料1の7ページ目、若宮八幡古墳の写真です。右上の写真が、全体写真です。右上の写真では奥にあるのが神社です。元々は古墳の上に神社が乗っていました。その神社を曳家し、土を掘って石室が露出している状態になっています。他3枚の写真で判るように石積みきれいに残って居ます。特に天井部については、大きな一枚石を載せるというのではなく、長い石を何本か橋のように渡すという造りをしているということが確認されました。また、石と石の間は隙間が空いていて、そこに小さい石や土を入れて隙間を埋めていくという形で、今回隙間が空いているということが判りました。

この辺については、熊野神社と石組みの仕方が若干違うところがあるかもしれませんが、今後詰めていきたいと考えております。石室の入り口の先頭部の所も同様な形で石が積まれているという形で、熊野神社古墳とよく似た古墳になっております。

資料1の8ページ、右上が入口正面の写真です。左上の写真は入口の脇の写真です。入口の左右にホゾ穴のような穴が開いていて、おそらくここに扉があって、そのホゾがここに入るのではないかと現地では考えています。

熊野神社古墳ではこういう穴は確認できていませんので、木製の扉ではなく、

石を積んでいるのではないかと考えられます。右下の写真、内部の方は同様に河原石を敷き詰めている状態で石積みの方も切り込みが確認されておりますので、熊野神社と同様なタイプの石室かなと考えております。ただし、熊野神社古墳の方が最終的に表面を削って仕上げるなどより丁寧な作業がされていることが確認できています。

以上、こういう形で復元模型を作っていきたいと考えております。ご審議よろしく願いいたします。

会長 この復元模型について、意見ををお願いします。

（復元模型の素材と構造について）

委員 素材はなんのでしょうか。

事務局 石室はメッシュ鉄筋モルタルです。1枚のパネルの厚さは約5cmです。外壁の材料は一般的な細長い金属パネルです。（資料1の3ページ参照）

委員 資料1の3ページの断面図ですが、原寸大で石組の構造ですか？

事務局 原寸大ですが、石組ではなくて、パネルにモルタルで石の切れ目を入れて石組と見える構造を作っているものです。専門家が実物の石や写真・資料を参考に実物に近い構造を作っていただくということです。熊野神社に無い部分については、色を変えて若宮八幡神社古墳の構造を参考にして復元していくということです。

委員 内部の明るさはどの程度ですか。

事務局 センサー付ライトで安全が保て、石室のイメージがわかる程度の明るさです。

委員 閉館時に扉はどうなりますか。

事務局 石室の入口付近にある金属製の扉が閉まります。

委員 センサー付き照明は点いたり消えたりして見難い、初期投資は掛かりますが、常時点灯可能で節電性能が高く、多くの施設で採用されているLED照明を検討してほしい。

事務局 検討して対応できれば採用します。

（歴史教材としての復元模型の価値について）

委員 1点目は熊野神社古墳は天井が残っていない、その天井をどうするか。若宮八幡古墳を参考とするとのことですが、これとは時代が違う。もう1点は、石室の基本的な構造が違うという意見があります。熊野神社古墳は独特の技術を持っている。若宮八幡神社は石を組んでいる。基本的に持ち送り構造という持たせ方が違う、その違いの説明をできるかどうか気をつけてください。

また、明治大学の故小林三郎先生が天井の問題について一言言っています。本当に天井部に石があったのかどうか問題があると指摘されていますので、明治大学関係者の方はその意見を持つ方が多いですので、それへの回答を用意して復元施設を作っていただきたい。後で問題点が指摘されると折角の成果にケチがつくこととなります。

若宮八幡古墳は天井石としての長い石が構造としてありますが、同様な場合、部材として石が中から大量に出てこないとおかしい、熊野神社ではそれがほとんどない。だから石は使われなかったのではないか、そういうことで小林先生は丸木による構造があったのでは、一番天辺は木製であったのではという指摘があるわけです。つまり、構造と梁の作り方が違うという意見があり、それに対する回答を用意してください。

事務局 よく検討いたします。

委員 天井の内側は長細い石を渡したように見える構造にするということですか。

事務局 今のご指摘を受けまして、長細い石を渡すのか天井を示す構造を設けずにフラットな形にするのかをこれから詰めていきます。

委員 側壁は熊野神社古墳そのもので、天井は他の古墳の事例を持つてくるということですか。

事務局 そうです。

委員 それよりは、無理に復元せず却って無い方が良く、フラットな方が良くということになりませんか。

事務局 そうですね。わかりました。

委員 我々委員は復元ということに敏感にならざるを得ないが、どこまでが復元でどこまでが想像上のことなのか、これは石みたいに見えるけどモルタルで出来ているということとかの説明はガイダンス棟の中にあるのか、それとも復元模型の中にあるのか。

事務局 ガイダンス棟を抜けて石室へ行く通路に簡単ですが説明を展示します。その他パンフレット等で補足的説明をするようにしたいと考えています。

委員 その説明には、復元模型はどういう風に作っているのか、本物とは違うとか、想像上の部分は本当は判らないこととか、そういう説明もあるのでしょうか。

事務局 考古学的な遺物・遺構に関しては復元した部分と想像した部分が判るような展示にするのが一般的方法で、なおかつ、そういう部分の説明・表示をしたいと考えています。

委員 こういった展示は児童・生徒が最初に見て色々なことを考える所なので、パンフレット等の資料で、判りやすくその違いを示せるようにしてほしい。

事務局 わかりました。

委員 熊野神社古墳で、鞆尻金具が出土した場所とか、この古墳の被葬者が少なくとも2人以上ということが想定されていることですので、この模型でも事実をそのまま表現するのかになると、どこにどういう遺物があって、それをどう解釈するのかという歴史教育の教材としても使えるような配慮ができていますか。

事務局 金具の出土地点は考えていましたが、被葬者が2人以上ということを表示することは想定していませんでしたので、説明できるようにしていきます。

委員 あるところが正確、あるところが不正確だと歴史教材として使えない。鉄釘が後室にある理由とか、模型の中に、熊野神社古墳の被葬者は少なくとも2人であるということを謳い、古墳の雰囲気味わうだけの施設ではなく、教材として使えるものにしていただきたい。歴史教材としては、ある程度、解説展示をプラスしておくべき、遺物が発見された場所に照明が当たるようにとか。

事務局 頂いたご意見を元に、展示の意味付けが判るように進めていきたいと思えます。

委員 素人はどこの古墳も同じように感じる。熊野神社古墳の個性が判るような展示にしていきたい。

事務局 わかりました。

(植栽について)

委員 (資料1ページ) サツキツツジを植える理由は？

事務局 植栽は墳丘の1段目です。土のままでは埃の発生とかで管理が大変だということと、整備にあたり地元の方から緑が少なくなったとのご意見と、緑化率のこともあり、低木で景観に支障がないということでサツキツツジにしています。

委員 植える植物は、古墳として特色があった方が良く、サツキツツジでは安っぽい。

事務局 特殊な植物を植えると管理が大変になるということで、一般的な植物にしています。

委員 (資料1ページの) 丸に「シ」とは何ですか。

事務局 シラカシです。低木ではなく、植栽時には樹高が約3mです。最終的には5～6mの高さまでに伸びる予定です。隣接地との目隠しを兼ねて植えます。

委員 伸びたら剪定してくれと言われて大変です。

事務局 熊野神社古墳にはサクラ等が植わっていましたが、高木が全く無いのも変です。そういった高木が無くなってきていますので、少しでも植えられ

る所は植えておこうと考えております。

委員 シラカシは樹高が15m位になるから、剪定するのが大変です。

事務局 ここは古墳公園として広げていく予定なので、その広がり considering している。その広がりの中で樹木も改めて検討したいと考えています。

現在は隣接地との目隠しのために植えます。

委員 当面の10年位を考えているということですか。

事務局 そのように計画を立てております。

委員 わかりました。

(復元模型へのアクセス方法について)

委員 復元模型に入るには、ガイダンス棟に入らずに行くことはできますか。

事務局 管理上のことがありますので、基本的に展示館の中を通過して、西側の出入口から入ることになります。車椅子の方はここの中まで入るのが難しいので、その場合だけ石室の正面を開けて見ていただく形と考えています。展示館には職員が居りますので、その方の管理下で見ていただくことになります。

委員 ガイダンス棟から復元模型までは屋根が掛かってないのですか。

委員 復元模型へのアクセスについてガイダンス棟の北から通路を南下して正面から入るのですか。

事務局 (資料1ページを示して) そうです。ガイダンス棟と模型の間にはガイダンス棟の屋根が約1.2mありますので雨除けができますが、復元模型には建築基準法の規制で屋根を設置できませんので、正面にも屋根はありません。

委員 雨の日に濡れずに模型までたどり着けるかどうかですが。

事務局 模型には屋根がありませんので、傘を差していただくことになると考えられます。

委員 車いす利用者はどうするのですか。

事務局 その場合は、門を開けて歩道から直接正面に入っていただくこととなります。

委員 復元模型内部の高さは？

事務局 (資料4ページから) 間口は1mありません。古墳は出入りを容易にする構造にはなっていません。(資料3ページから) 最奥部は高さ3mあり、(資料2ページから) 一番広い部屋です。

委員 それでは身障者は正面から入ることは無理です、裏側から入れるようにするとか検討できませんか。前からでは到底無理です。

事務局 石室内に扉などを付けると、復元イメージがだいぶ薄れてしまうので、難しいと考えています。

会長 今回の意見を参考により良いものを作ってください。

以上で審議事項（１）の審議を終了とします。

次に、報告事項（１）ふるさと府中歴史館の開館状況とくらやみ祭歴史展の実施について、事務局の説明求めます。

２ 報告事項

（１）ふるさと府中歴史館の開館状況とくらやみ祭歴史展の実施について

事務局 来館者数についてです。（資料２を読みあげました。）資料に記載されていない事項としては、来館者数の最大は４月１０日６９１人、同最少は５月１２日で５８人でした。やはり土日祝日の来館者数が多い傾向にあります。おそらく、明後日の日曜日に来館者数が１万人を迎えるはずですが。

続きまして、歴史展についてです。

ギャラリートーク参加者は計２５名です。

常時１０名以上の来場者がありました

反省点としては、事前の準備と周知が遅かったことです。

それゆえでしょうか、イベント終了後に未だやっているのかとの問い合わせがありました。

また、歴史展の映像への感想として、くらやみ祭りは、今年は神事だけでしたので、通常はこうやっているんだねと参考になったというご意見がありました。今後も展示の解説や資料の充実をしたいと考えております。

委員 １階を素通りする方はカウントしているのですか。

事務局 １階では展示室に入られた方のみをカウントしております。１階展示室と２階公文書史料室を両方ご利用になられる方もいらっしゃいますので、１階と２階の合計数は求めておりません。

委員 公文書の利用率はどれくらいですか。

事務局 閲覧請求は１件もありません。資料請求（レファレンス）は何件か頂いていますが、いずれも当館の資料ではありませんでしたので、閲覧請求に繋がっていません。

委員 図書館の利用者はどれくらいですか。

事務局 こちらはカウントできていません。図書館統計は１か月後でないといけないので、その後に報告します。

会長 １階の映像コーナーがよくできている。今後の展開は考えているのか？

事務局 当面は現状のものを見ていただきたいと思います。郷土の森博物館は２０年かけてリニューアルしましたので、当館でも新しい映像を追加することは考えております。

3 その他

事務局からの連絡事項

7月22日に全史協を当市で開催します。郷土の森博物館がメイン会場で、関東各地から関係者が集まります。

10月にむさし府中ふるさと祭りを計画しています。中身は国司パレード等です。市の他の部署と調整しながら考えているところです。

保存活用事業として

JR府中本町駅御殿地地区整備事業は、今年度下半期より動く予定です。

ケヤキ並木保護管理事業は、保護管理計画に従い、樹木の剪定・伐採・補植等を実施予定です。

白糸台掩体壕の保存整備事業は、年度内に工事までの予定です。

文化財の指定について、建造物の保存指定も今年度後半で検討します。

有形文化財として、候補資料の指定も検討する予定です。

(1) 次回の開催日程について

次回平成23年度の府中市文化財保護審議会の第2回です。

日程は、平成23年7月25日（月）の午前が第1候補、午後が第2候補となりました。

期日が近づきましたら、委員の皆様のご都合を合わせ、いずれかの時間帯で実施することといたします。